

国語科学習指導案

10月27日(水) 4校時 2年4組(2-4教室)

授業者

1 単元名 いにしへの心を訪ねる「扇の的 - 『平家物語』から」

2 単元の目標

- (1) 古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。【知識・技能】
- (2) 現代語訳や語注を手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を捉えている。【知識・技能】
- (3) 「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、心情を捉え、内容を解釈している。【思考・判断・表現】
- (4) 「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。【思考・判断・表現】
- (5) 登場人物の言動の意味や、描かれている情景について粘り強く考え、学習課題に沿って作品の印象を伝え合おうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

3 単元について

(1) 単元の特徴

本単元は、軍記物語「平家物語」と随筆「徒然草」、漢詩の3つの教材から成り立っている。「平家物語」には戦いの中でのさまざまな人間のありさまが描かれており、冒頭部分を小学生のときに暗唱している生徒もいる。「仁和寺にある法師」では、説話的なおもしろさと作者の人間観察の鋭さが味わえる。漢詩では構成法、鑑賞法を学ぶことができる。古典の歴史的仮名遣いやリズムを意識して音読したり、場面の様子や登場人物の心情を読み取ったりしていくのに適した教材である。

(2) 子どもの姿

本学級の子どもたちは、学習に対する意欲にも学力にも大きな差がある集団である。文章中にあるキーワードを見つけ、そこから想像したり、内容を読み取ったりすることは、文学的文章や韻文の学習を通して繰り返し行っており、言葉に着目して考えることは少しずつできるようになってきている。しかし、「なぜそのように読み取ったか」という根拠を挙げることについては、深く考え、しっかりと説明する力が十分に身に付いているとは言えない。そこで本単元では、場面の状況や人物の心情を根拠を挙げて説明できるようにする。さらに読み取ったことを表現する活動を取り入れ、古典学習を進めていく。

(3) 単元構想・授業構想

本単元の指導にあたっては、初めに学習計画を立て、子どもが見通しをもって学習を進められるようにする。古典学習の基本となる音読を行い、古文、漢文に読み慣れるとともに、古典に描かれた情景や登場人物の心情を読み取り、「平家物語」では群読を、「徒然草」では役割演技を、漢詩ではイメージ画を描くことで、読み取った内容を表現させる。単元のまとめの学習として、教材に登場した人物の特徴を捉え、その人物の性格や行動のしかた、ものの考え方などを論じる文章を書く活動を行う。

本時の指導にあたっては、場面の中心人物である那須与一の置かれた状況や、与一の祈念する様子から与一の心情を読み取るため、場面の状況をイメージできるようなペープサートやワークシートの活用と、読みの視点の提示をする。さらに、全体での交流の場を設定し、子どもの意見をつないだり、問い返しをしたりすることで、考えを広げたり深めたりできるようにする。

4 研究副主題との関連

リーディングスキルテストでは、本学級の子どもたちは「推論」と「イメージ同定」の結果が比較的よい。本単元では、この2つと「照応解決」の視点を取り入れた授業を行うこととした。ペープサートやワークシートを活用し、与一と扇の位置、周囲の様子等を図式化し、与一の心情を想像しやすくする(イメージ同定、照応解決)。時刻や天候、与一の祈念する言葉に着目させ、特に「人に二度〜向かふべからず」の言葉から与一の覚悟を推論させることで、課題である与一の心情に迫れるようにしたい。

5 単元の指導計画(別紙)

6 本時の指導

(1) 本時のねらい

場面の状況やその場に置かれた登場人物の心情について、叙述に即して読み取り、交流を通して、自分の考えをまとめることができる。